

女1600mR(蔵野→鈴木→石塚→樽角) 『リレーの厳しさを実感』

○蔵野:「全国という舞台で自分のベストの走りで行えなかったのはすごく悔しいし、2、3、4走が安心できるような走りができずトップで戻って来なかったのは、申し訳ないすごく心残りになっています。でも5年前陸上を始めたときも、2年前中里先生に誘われて高校でも陸上を続けようと思ったときも、全く想像できなかった、想像もしていなかった舞台に立てて本当に幸せですし、ここまで引張りあげて下さった中里先生には感謝してもしきれません。私の問題児股関節に最後まで向き合ってくれた島田さん町田さん、ずっと温かい心強い応援をしてくれた陸上部のみんな、なによりこれまでずっと一緒に走ってきてくれた最高のマイルメンのみんながいなかったらここまで来ることはできませんでした。かっこいい先輩、かわいいう先輩、頼もしい学年に恵まれて、良い環境で部活できて本当に幸せ者です。市高陸上部に入って本当に良かったです！他の3年生と違ってもう少し部活に残る予定なので、最後まで残らないように全力でやりたいと思います。たくさんの応援、サポートありがとうございました！」

○鈴木:「最初で最後の全国大会で、いつも通りの走りをしようとしても気持ちが高ぶったり、緊張もして中々納得のいく走りをするのが出来ませんでした。2走の最初の位置がまず1つのポイントで状況把握を瞬時にしなければいけませんでした。どんな状況でも入りは出さずとも思っていて自分ではしっかり入った感じはありましたが、周りとのペース感覚が分かりずらくいつも通りの走りが出来ていなかったかなと終わってみてとても痛感します。ここまで来たら、大幅チームベスト更新が自分たちの目標でしたが、それも達成することが出来ずとても悔しく思います。大舞台に出場することではなく、大舞台で戦うことを目標にすることは難しいことですがそうすることでより良い結果に繋がるのだと感じました。今大会で貴重な経験を沢山することが出来ました。それが出来たのは、中里先生を始め、ご指導してくださったコーチの方々、応援、サポートをしてくださった先輩方を含めた部員みんな、保護者の方々そしてメンバーのみんなの支えがあったことです。本当にありがとうございました。これで部活は引退になりますが、この経験を今後に活かしていきたいと思っています。最高の陸上人生になりました。ありがとうございました。」



1走

2走

○石塚:「最初で最後のインターハイでしたが、納得のいかない結果で終わってしまいとても悔しいです。アツプで先生と島田さんからアドバイスしてもらって、ダッシュのときダイナミックだけに走ると自分のやりたかった走りがやっと掴めたと思って嬉しくて、レースではそれを意識したけど上手く再現できず、入りのスピードも足りませんでした。県が終わってからのラストの動きを改善し始めて、今までは入りが遅いと何も出来ずに終わってしまっていたけど、今回のように入りが遅くてもラスト切り替えられるようになったのは県からの練習で成長した点なのかなと思います。この大舞台で走れたことは楽しかったし、4人で走れて良かったです。中学で県大に出るのがやっとだった自分が全国の舞台に立つことができたのは中里先生のおかげです。ここまで連れてきて下さった中里先生、毎回遅い時間まで診て下さった島田さんと町田さん、応援・サポートしてくれた皆さんありがとうございました！マイルメンの皆さんもありがとうございました！！大好き！！」

○樽角:「最初は緊張し身体が軽かったですが走るにつれ自分の理想としている重さに近づけられました。バックは前の選手を抜かせることを考えたことで心に余裕を持ったまま気持ちよく走れました。最初から背中が反っていたり、腕振りのタイミングが遅れていたりで、もっと上半身を上手く使えるようにしたいです。まだ改善すべきところがたくさんある中この舞台に立つ経験ができて良かったですし、先輩方とのレースを楽しむことができました。応援ありがとうございました。」



3走

4走

○顧問(中里):『復権』を掲げて4年。ようやくリレーでの全国にたどり着きました。ただ、市立浦和としては道半ば。1・2年生と共に、来年広島でリベンジします！さらなる御声援をお願いします。」

目ら第問レる盛けみた。長初目複と実博上程ら
のな1がーの大会上、に出近日一敷し施多競で8 7
結い歩掲の出大会がチ場年の種かで種ての技、月
果。にげの場るーがは、最出へ、た陸会国日8
にそしる場るム多、の戦い日なはぶ立技福学一(日
つねな『も』ことか1日年にし市競、等木一(日
いぞけ復ありがしつ種とまなはぶ立技福学一(日
てれ権り、でた目、でり4り浦場岡校の、種
はのば、リできもだの、種のとで県陸日か

すどいき来う。こ使そしこ出なも、か戦でそ
るれるら年。抜ことそ命れなで場こととでその
のだ。れ度大会な、でがけ納すととに紹介の
かけこたへの会なく、出も『れ得るだてもなる
、高のこの終、場あ市ばのいかそ難、たが各
見一とスな、こにる立ないらそ難、たが各
守志瞬をタわ、こ満。浦らくにれし、全、コ
ろでか示ーり、で足だ和な競はでく、国、コ
う準らしトは、戦すか『い技、も立、はしナ
。備、てが、いるらの。をそ、派、大会確い！

岡田 1500m・3000m

『全国で自己ベストの好走』

○岡田:「今回の大会は陸上を続けて6年、初めてレース中に楽しいと思いました。自分のラップが遅いわけでも、調子が悪いわけでもなく自己ベストのラップタイムで走っているのにどんどん先頭の背中が小さくなっていき、驚くのと同時に全国のレベルの高さを目の前にして「こんなところで走れるまで成長したんだ」と気分が高まりました。1500mはラストに夢だった4分半切りができてとても嬉しかったです。3000mは地区大会の自分の記録すら超えることができず、不甲斐ない走りだったけれど倒れそうな気候の中、みんなの応援の声のおかげで全力を出し切ることができました。現地で応援メッセージでたくさんの人に支えてもらえることを実感し幸せでした。7泊8日の間にみんなと仲良くなれて、たくさん貴重な経験ができて、美味しいものを食べて一生の思い出になりました。高校で陸上を続けると決めてから辛いことは数え切れないくらいたくさんあったけれど全て忘れてしまえるくらい本当に本当に楽しかったです！多くの人ののおかげでここまで来ることができました。ありがとうございました！」

○顧問(長谷):「1500m予選では、1000mまで1周約72秒を切るペースでレースを進め、2分55秒で通過すると、その後少しペースを落としましたが、ラストで粘りの走りを見せ、4分29秒65とベストタイムを更新することができました。また、3000m予選では、最初の1000mを設定タイムの3分5秒で通過し、次の1000mでは3分24秒とペースを落とし、それでもラスト1000mでは粘って3分22秒まで戻すことができました。結果は9分51秒76と自己ベストを更新することはできませんでしたが、酷暑の中で3000mを最後まで諦めずに走り切ってくれました。関東大会以降、インターハイに向けて1500mは4分25秒、3000mは9分を20秒を目標に練習を行ってきました。そしてポイント練習のほとんどを男子部員と一緒に、関東大会前よりも強度の高い練習を行うことができました。練習を見る限りでは目標タイムまで十分に近

づいてきてはいましたが、真夏の過酷なコンディションで行われるインターハイという大舞台では残念ながらその目標を達成することはできませんでした。これまで多くの人に支えられて、本人もその期待に応えようと努力を惜みずに練習に励んでくれました。本当によく頑張ってくれたと思います。また、様々な場面で実によく多くの人に支え、ご声援を頂きました。感謝申し上げます。ありがとうございました。」



津里 走高跳『来年の糧に』

○津里:「インターハイという大きな大会を終えて、ひとまず学総シーズンをここまで戦えたことに充実感を得ています。関東大会が終わってから今までの期間で今回の試合に向けた準備を重ねてきましたが、全国大会で自分の力を出すということはすごく難しいのだと改めて実感しました。2年生でこのような大会に出場できたという貴重な経験を来年へ繋げるために、これからの行動で「今回の試合は次に繋げるものになった」と思えるようにしていきます。来年全国で勝負ができる選手になるためにここからの1年間、インターハイ入賞という目標達成に繋がる練習を積み重ねていきます。」

